

# 酒田市 デジタル人材育成方針【概要版】

2026年4月8日 Ver.01-01



企画部 デジタル戦略課

# 本方針の位置付け

- 本方針は、人材育成基本方針における「デジタル人材の育成」を具体化する個別方針として、目指す将来像と育成の考え方、具体的な取組、推進体制を明示し、全庁的に推進するための指針とします。
- 取組期間は、2026年度から3か年(2026-2028年度)とします。  
期間中であっても、庁内環境の変化や取組の進捗等を踏まえ、随時見直し・更新します。取組期間終了後も、評価と改善を行いながら継続的に進めます。

本方針は、職員一人ひとりがデジタルを前提に業務を見直し、テクノロジーとデータを活用して改善を継続できる状態を計画的に実現することで、住民起点の行政サービスの質と生産性を同時に高めることを目的とします。

- 目指す状態：業務改革を回せる人材が各所属にいる/つながる
- 重点：実務で使えるスキル獲得 + 実践機会(伴走・OJT)の設計
- 成果：サービス品質向上の継続的創出・業務時間削減(効率化・省力化)

# デジタル人材育成方針の全体像

## 育成する2つの層の人材

- **DX・BPRサポーター※(呼称:デビサポ)**
  - ✓ 各課で、業務改善をリードする職員
  - ✓ デジタルの専門家ではなく、「業務を知り、人をつなぐ役割」

※DX・BPRサポーター：各課等において、業務の課題を発見し、DX推進部門と連携してDX・BPRの取り組みをけん引・推進する人材≒DX推進リーダー
- **一般職員(全職員)**
  - ✓ デジタルを「不安なく、使える」状態
  - ✓ 日々の業務に、今あるツールを活用

## 4つのスキル領域

変革マインドの醸成を前提に、業務の効率化・省力化につながるスキルを設定

デジタル・IT

サービスデザイン

変革マインド

データ利活用

生成AI利活用

## 支援

- 成功事例や悩みの共有
- DX部門職員や外部人材による伴走型支援

## 育成《DX・BPRサポーター》

- 実務で使える力を、実践を通して育成
- スキルの可視化と習得支援
  - 課題解決ワークショップ
  - ノーコード/生成AI活用

## 育成《一般職員》

- 誰もが挑戦しやすい土壌づくり
- ICTリテラシー向上

## 認定・評価

- 庁内でスキルを認定していく仕組みを検討・構築
- 挑戦したプロセス自体を評価

## 「やらされるDX」から「自ら変えるDX」へ

- DX・BPRサポーター創出数 **40**人
- 全職員ICTリテラシー研修修了率 **100**%
- BPR提案・実施件数(業務改善数) **30**件

※2026(R8)-2028(R10)年度、3か年での目標/KPI